

第94話 ジェンナーの銅像の謎(上)

薬学雑誌 1899年(明治32年) 299頁(2月26日号)

薬誌に「種痘医祖善那君之像」という見出しの記事があった。善那というのは、牛痘法を發明し、天然痘という恐ろしい疫病から人類を救ったイギリスの医師エドワード・ジェンナー(1749~1823)のことである。彼は今でも有名であるが、昔はもっと有名だった。なぜなら明治37年~昭和20年代まで、自分の子供を実験台にした美談として(史実ではない)尋常小学校の国定教科書(修身)に載っていたからである。日本人は、ジェンナーの偉業を最もよく知っていた国民であったに違いない。

薬誌曰く「種痘發明者善那氏の銅像は昨年、大日本私立衛生会の主催にて有志の醸金を募り、美術学校に託して鑄造中なりしが、過般まったく竣功し、目下衛生会に保存し、台石の出来を待ちて芝公園に建立するはずにて、像は高さ六尺の立像にして、身に羅馬風の衣服を粧ひ、左手に書冊を繙き居る姿勢にして、すこぶる傑作なりといふ。」

私はこれを読んで銅像を見に行こうとしたのだが、どうも芝公園にはなく、ジェンナー像は上野の国立博物館の庭に一体だけあるらしい。芝公園のものは戦時中に供出されてしまったのかな、などと考えながら上野のジェンナー像について調べるとその碑文がネットにあった。

問題は後半である。建林愛造氏の読み下し文によると、  
 「(略)曩者大日本私立衛生会、君の像を鑄し以て徳を表さんと謀る。朝野の人士、翕然として賛助し、東京美術学校に鑄造を託す。今茲に明治37年6月、官允を得て之を帝室博物館の側らに建つ(略)」

つまり、薬誌にあった銅像と全く同じく、大日本私立衛生



ジェンナー像  
(国立博物館 HP から)

是為種痘医祖善那君之像君英国人以良医名時患痘瘡禍世創牛痘種法至西曆一千七百九十八年始公之於世其方流傳各國經五十餘年入我長崎實嘉永二年也遂遍布海内曩者大日本私立衛生会謀鑄君像以表徳朝野人士翕然賛助託東京美術学校鑄造今茲明治三十七年六月得官允建之帝室博物館側嗚呼躋民寿域患沢不可援也乃記以念後

会が東京美術学校に依頼したものである。こんな偶然があるだろうか。私立衛生会が作ったばかりの像をまた作り直すというのも腑に落ちない。

では同じものだろうか。すなわち、何らかの事情で芝公園に建てずに上野に移したのだろうか。しかし、薬誌のジェンナー像は明治32年に完成している。5年も保管しておくのは妙だし、それなら「37年6月完成(上野の像の公式製作年)」とはならない。それに上野の像は、確かに左手に本を持った6尺の立像であるが、ローマ風の服ではない。

もう少しこの謎を調べてみよう。

小林 力